

平成17年度 研究成果の社会還元・普及事業

ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
報告書

【機 関 名】 山形大学

【実施担当者】 山形大学工学部機能高分子工学科 教授 城戸淳二

【開 催 日】 平成17年11月26日（土）

【開催会場】 山形大学工学部

【プログラムのテーマ名】 光る物質を作ってみよう

【プログラムの実施状況】

本プログラムは、県内外から中学生24名及び保護者5名、中学校教員1名参加で実施した。午前中は、実施担当者である城戸教授からの講義が行われ、研究者になった経緯から始まり、現在の研究内容について、アニメ絵や映像を使ってわかりやすく説明が行われた。参加者は、「有機EL」については、テレビ等でしか見たことがなかったために、間近でみる光に大変興味を持ったようでした。講義が進むにつれて、城戸教授が世界的な発明を行った人であることがわかると、ますます、熱心に聞き入っておりました。

その後、事前のアンケート調査の質問にふれ、「科学者になるにはどうしたらいいか？」などについて、①好奇心②創造力（想像力）③やる気（根性）を挙げて説明された。昼休みは、学生食堂で城戸教授及び城戸研究室大学院生等とともに昼食をとってもらいました。これも、今回の企画のひとつとして実施したものであり、普段では、なかなか体験のできない大学生活に触れてもらうことで、大学を身近に感じてもらう良い機会となったようで、参加者には大変好評でした。

午後からは、化学実験を行いました。参加者は、白衣に着替え、安全用メガネをつけると科学者になった気分と喜んでおりました。実験を始める前に、城戸研究室の大学院生から注意事項等の説明を受け、2人1組の班編成で、各班ごとの担当大学院生から指導を受けながら、真剣に実験を行っておりました。

また、実験終了後には、全員に乾電池で光る有機EL素子がプレゼントとして手渡され、参加者は、実際に光る素子をもらい、大変喜んでおりました。

最後に、初めてのことばかりでありましたが、何事もなく、終始和やかに実施されたプログラムでありました。

【参加者からの感想の一部を紹介】

◎今回のこの事業では最先端の研究を身近に感じる事ができました。そしてそれは僕に未来を少し見せてくれました。画像がくっきりと映り、紙のように薄い有機EL素子は素晴らしいと思いました。最後に、値段のことを考えてもらえるとうれしいです。

◎私はテレビで有機ELが話題になった時、本当にあんな紙みたいな物でテレビが出来るのだろうか？と信じられない気持ちでした。今回この「ひらめき☆ときめきサイエンス」に参加させていただき有機ELという物を実際に目の前で見て、人間ってすごいな・・・いろんな発見をしてそこから色々なことを考えていけるのだと思いました。また、このような機会があったら、ぜひ参加させていただきたいと思いました。本当にありがとうございました。

◎今回、初めて有機ELを見てびっくりしました。また、城戸先生にもびっくりしました。あんなにペラペラしたものがテレビなのか・・・とか、なんであの液体が光るのかなど様々な疑問や感想を持ちました。また、たくさんの説明を聞き、実験をしていくうちに有機ELについて知ることができました。説明の中では、城戸先生のことについてなどもあって、城戸先生は子供の頃はこういう人だったんだと驚きを隠せませんでした。努力すれば、夢に向かって頑張れば、夢は必ず叶うという事を聞き、ちょっと自分に自信を持つことができました。城戸先生の目標としている”2010年までに紙のようにうすいテレビを作る”は必ずできると思います。「失敗から学ぶ成功」は私の心に強く残りました。本当にありがとうございました。自分も夢に向かって精一杯頑張りたいと思います。！！

◎当然のことながら、初めてのことばかりでした。県内に「有機EL」というすごい物を発明した人がいるなんて知りませんでした。今回の実験講座では、有機ELだけでなく、光についてなども知ることができてとても面白かったです。私が印象に残っているのはやはり白衣を着て行った実験です。薬品と薬品を混ぜると、色が変わり、ブラックライトを当てると黄色っぽく光っていたのが特に印象に残っています。このような事を職として働いている人が私はとてもうらやましいです。もちろん実験ばかりが仕事ではないと思いますが、私は理科が好きなのでこういった職もいかなと思えました。ものすごく楽しかったです。